

中村 中

ピアノセッション 十の指 2017 ～かたわれを求めて～

出演
中村 中
石田 純
平里 修一
ベース
ドラム

ツアー決定!

8/26(土) 福岡 Gate's7
8/27(日) 大阪 umeda TRAD
9/ 2(土) 千葉 成田市文化芸術センター
9/ 3(日) 名古屋 ボトムライン
9/ 9(土) 浜松 Live House浜松 窓枠
9/10(日) 福井 響のホール
9/16(土) 長野 長野市芸術館 アクトスペース

各プレイガイドにて発売

2015年 春 鴻上尚史の作・演出による
舞台「ベター・ハーフ」は大盛況のうちに幕を閉じた。
2017年 夏 舞台の再演決定に伴い、
中村 中が歌った劇中歌がCDでも甦る。
根岸孝旨とのタッグにより濃密で荘厳に生まれ変わったサウンドは、
舞台とは違った味わいながら名作と言って過言ではない仕上がりだ。
愛されるために生まれて来たはずの、すべての人へ送る。

本作は鴻上尚史の作・演出による四人芝居「ベター・ハーフ」で、中村 中本人が歌う劇中歌を収録したミニアルバムだ。ベター・ハーフとは、身も心もびたりと相性が合うパートナーのこと。天国でひとつだった魂が、現世に生れる時に男性と女性に分けられて別々に生まれてくる。舞台はその自分の「かたわれ」のことを求めて試行錯誤する四人の男女の恋愛模様を綴った内容で、中村 中はホテルのラウンジでピアノの弾き語りを仕事にしているトランスジェンダーの女性を演じており、本作の楽曲も舞台上で中村が実際にピアノを弾きながら歌っている。

この舞台の初演は2015年。4月から5月にかけて東京と大阪で上演され、当日券もキャンセル待ちで入場できない者が出るほどの盛り上がりとなり、それを受けて2017年に東京、大阪、名古屋、福岡で行われる再演に伴ってこのCDもリリースの運びとなったものだ。

このように本作は多くの歴史的な名曲を収めた作品だ。楽曲ごとの声色やヴォーカル、スタイルの選択からは、原曲への敬意を表明しつつ、心身を最大限に駆使して自らの歌へ昇華する中村 中のヴォーカリストとしてのキャパシティの大きさが伝わってくる。

サウンド面ではカヴァー曲でプロデュースを担当している根岸孝旨とのチームワークでの、コンテンポラリーな刺激に満ちたアプローチが印象的で、これは今後の彼女自身の音楽制作のポイントとなるに違いない。

それに加えて中村 中本人のオリジナル「愛されたい」が入っている。なんの違和感もないことにも驚かされる。本人にしてみれば、デビュー前にストリートで演奏していた頃から、スタンダードとオリジナルを交えて披露するのは自然なことなのかもしれないが、これはシンガー・ソングライターである彼女自身の卓越した作詞作曲能力の証でもあるだろう。

志田 歩

プロフィール
中村 中
歌手・作詞作曲家・役者
1985年6月28日生まれ 東京都墨田区出身
シングル「汚れた下着」(06)でデビュー。
2ndシングル「友達の話」(06)で第58回 NHK紅白歌合戦に出場。
4thアルバム「少年少女」(10)は第52回 輝く!日本レコード大賞にて優秀アルバム賞を受賞。
代表曲は「リンゴ売り」(07)「風立ちぬ」(08)など。最新作はアルバム「去年も、今年も、来年も。」(15)。
歌手としての傍ら、AAA、戸田恵子、STARDUST REVUE、岩崎宏美、研ナオコ、八代亜紀など多くの表現者や、舞台への詞・曲提供も行う。
また役者として『ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ』(07/演・鈴木勝秀)、『ガス人間第1号』(09/演・後藤ひろひと)、『エドワード二世』(13/演・森 新太郎)、『夜会vol.18「橋の下のアルカディア」』(14/作演・中島みゆき)、『マーキュリー・ファー』(15/演・白井晃)、『ベター・ハーフ』(15/作演・鴻上尚史)、『ライ王のテラス』(16/演・宮本亜門)など様々な舞台に出演。
何れの活動においても、その繊細さと大胆さで強烈な印象を残すのが中村 中である。



生と死と愛を歌う

1 たとえばぼくが死んだら 作詞・作曲 森田童子
2 誕生 作詞・作曲 中島みゆき
3 愛されたい 作詞・作曲 中村 中
4 愛してる 作詞・作曲 橘いずみ
5 サン・トワ・マミー 作詞・作曲 Salvatore Adamo / Aimable Donfut 訳詞 岩谷時子
TECI-1546 ¥1,852+税 (税込¥2,000)

中村 中 ベター・ハーフ
2017.6.21
RELEASE